

平成27年度北海道大学情報基盤センター共同研究成果報告書

1. 研究領域番号 A3 コンテンツ, データ, メディア教育
2. 研究課題名 大学間連携による漫画を活用した情報倫理教育の実践と成果共有
3. 研究期間 平成27年 4月 1日 ~ 平成28年 3月31日

4. 研究代表者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
多川 孝央	九州大学・情報基盤研究開発センター	助教	

5. 研究分担者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
山之上 卓	福山大学・工学部	教授	
岡部 成玄	北海道大学	名誉教授	
布施 泉	北海道大学・情報基盤センター	教授	
村田育也	福岡教育大学大学院・教育学研究科	教授	
辰己丈夫	放送大学・教養学部 情報コース	准教授	
上田 浩	京都大学・学術情報メディアセンター	准教授	
中西通雄	大阪工業大学・情報科学部	教授	

6. 共同研究の成果

下欄には、当該研究期間内に実施した共同研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、共同研究申請書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、800字～1,000字で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。なお、研究成果の論文・学会発表等を行った実績（発表等の予定を含む。）があれば、あわせて記載して下さい。

本研究は、情報倫理教育の学習手法の一つとして、漫画活用を位置づけ、高等教育等における学習者を対象とした「漫画を用いた情報倫理学習プログラム」を大学間で連携実施し、その成果を共有するための検討を目的とする。

本研究の研究代表者・分担者は、大学 ICT 推進協議会の情報教育部会のメンバー（多川・布施）であり、また大学 ICT 推進協議会で開発している情報倫理デジタルビデオ小品集のタスクフォースでもある。現在、小品集5の販売が開始されている。ビデオを用いた情報倫理教育は、これまで一定の学習効果をもたらしていることが研究成果から示されているが、より効果的な学習を、様々な対象者に対して行うための検討を本研究で推進することが必要である。ビデオ教材の開発には大きなコストがかかるため、より修正が容易な漫画教材の活用について検討を進めた。特に、これまで北海道大学で蓄積されている情報倫理用の漫画の活用を想定した。

高等教育を含む幅広い年齢層に対する情報倫理教育の効果を測るために、私たちは、前年度にビデオ教材とマンガ教材の視聴による学習効果の違いの有無にかかわる Web 調査を行っており、まずは、その調査結果に関わる分析を行うことから研究を開始した。これらの分析結果については、教

育システム情報学会第2回研究会（北海道札幌市で開催）にて発表した。概略は以下の通りである。

教材視聴を伴う Web 調査により、被調査者の情報倫理に係る知識等の向上度合いについて検討を行った。大学生と 40 歳代の 2 種類を対象とする。調査回答の一環であり、自らの学習のためのアクセスではない。このような自発的学習ではない場合の提示コンテンツのあり方を検討する。一つは、先のビデオ小品集を一つ（ビデオ教材）であり、もう一つは同じシナリオをマンガ化した教材を提示した。また、情報倫理意識や行動、情報倫理的な態度の涵養のために、日常的なトラブル事例の提示のみで効果があるのか、背景的な知識の理解までが必須であるのかを調査するために、教材を一部提示と全部提示のグループに分け、回答結果に変化がみられるかについて調べた。結果として、教材の主題である知識については、教材の全部提示の方が一部提示（トラブル事例の提示のみ）より、ビデオ視聴に関しては結果が有意に良かったものの、知識定着の割合はさほど高くなく（25%-30%程度）、教材の提示については工夫が必要であるという結論に達した。また、このような受動的学習では、視聴覚の刺激が高いビデオ教材が、漫画に比較して、反応が良く、特に 40 代を対象とした場合、漫画が Web 調査上では見づらいといった意見があった。これは漫画の形式についての工夫が必要であることを意味すると思われる。

これらの結果を踏まえ、漫画を使うとよい場合、ビデオを使うとよい場合、またどのような構成を取ることが望ましいか等、検討を進めた。3 月には、研究代表者、分担者の日程を合わせ、北海道大学にて議論を行った（ほぼ全員で議論を行うことができた）。

関連の研究報告

布施泉，岡部成玄，深田昭三，中村純，山之上卓，中西通雄，村田育也，多川孝央，” 情報倫理教材の視聴による知識習得—メディアの違いと前提知識を踏まえた分析—”，教育システム情報学会第2回研究会報告 30(2)，9-12，2015-07.